

デジタル技工に付加価値をつけるために

森 朋智

デジタル機器が広く歯科業界へ普及することによって、補綴物製作の手法や使用できるマテリアルの多様化など、それらの応用が年々幅広くなっている。今後もそれらのシステムや口腔内スキャナーなどがより進歩することで、日々の臨床作業において必要不可欠なものになってくるのは容易に想像できることだと思われる。

そういった中でデジタル機器やそれらのシステムを使いこなし、どのように付加価値をつけていくのが我々歯科技工士にとっての次の課題になるの难道ろうか。

今回は私がデジタル機器をどのように取り入れ、使用しているかを短い時間ではあるが日々の臨床を通して紹介したい。